

来週の市場とレート予想

	3/5(月)	3/6(火)	3/7(水)	3/8(木)	3/9(金)
無担保O/N			△0.070% ~ 0.001%		
銀行券	+ 600	+ 1,000	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	△ 8,100	△ 8,000	+ 5,000	ト ン	+ 1,000
資金需給	△ 7,500	△ 7,000	+ 5,000	ト ン	+ 1,000
主な要因					
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,300 CP等買入 △ 300 国債補完供給 + 1,600				
オベスタート	共通担保(全店) + 2,300	国債買入 + 10,600 短国買入 + 2,500			
(日本)			景気動向指数(1月、内閣府)	日銀 政策委員会・金融政策決定会合(9日まで) 国内総生産 (GDP、10-12月改定値、内閣府) 国際収支(1月、財務省)	日銀金融政策決定会合の結果発表 マネーストック(2月、日銀)
(海外)	米 ISM非製造業景況指数(2月) 欧 ユーロ圏総合・サービス業PMI(2月・改定値) 欧 ユーロ圏小売売上高(1月)	米 製造業受注(1月) 米 ニューヨーク連銀総裁講演 米 フレイナードFRB理事講演 米 グラス連銀総裁講演	米 ADP雇用統計(2月) 米 貿易収支 米 地区連銀経済報告 (ハーフジュブック) 米 ニューヨーク連銀総裁講演 米 アトランタ連銀総裁講演 欧 ユーロ圏GDP(10-12月、確定値)	米 週間新規失業保険申請件数 (3日終了週) 欧 ECB政策金利発表・記者会見	米 雇用統計 米 シカゴ連銀総裁講演 米 ホストン連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初364兆5000億円から始まった。その後は短国・国債買入オペを主因に366兆8,000億円まで増加した。その後、法人税・保険揚げを主因に減少し、週末には361兆3,300億円で越週した。
無担保コールON物は、週初、先週末とほぼ横ばい圏の△0.048%から始まった。28日は月末越えの調達を控える動きから、ビッドがやや薄くなり同金利は△0.053%まで低下し、その後も週末まで△0.05%台で推移した。
ターム物では1~2W物を中心に△0.02%~△0.03%での出合いが散見された。
総務省が2日に発表した1月の完全失業率は前月比0.3ポイント低下の2.4%となり2ヵ月ぶりに改善し、24年9ヵ月ぶりの低水準となった。
来週の主な予定は、国内では日銀金融政策決定会合(8日~9日)、海外では、ECB政策金利発表・ドラギ総裁記者会見(8日)、米国雇用統計(9日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.250 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,300億円で、週間償還総額の約1兆6,500億円を下回った。月末日の大量償還(約1兆3,000億円)に対し、新規発行が約7,700億円に止まり大幅な償還超であった。その為、2月末の発行市場残高は約17兆1,345億円と、前月比1兆1,418億円のマイナスとなった。発行レートは、一部の決算末越え物に対してディーラーから強いビッドが入り、また期内物も玉確保のニーズが強く、総じて低下地合いであった。来週の償還総額は、約5,600億円となっている。一般事業法人の資金需要が強く、償還額程度の発行が見込まれる。決算期末の有利子負債の圧縮目的から、ショートターム物の発行が中心となるだろう。発行レートは、決算期末越えについてはディーラーのニーズが強くマイナス圏内での出合い、期内物は0%近辺の出合いを予想する。

<TDB>

1日に行われた国庫短期証券3M第742回債の入札は、最高落札レート△0.1944%(前回債△0.1764%)、平均落札レート△0.2112%(同△0.1880%)と前回入札からマイナス幅を拡大。年度末需要が支えとなり、堅調な結果となった。週末のセカンダリー市場は、新発3ヶ月物は△0.21%近辺の出合いが見られた。

<レポ>

足許GCは末初物の△0.15%近辺から始まり、TNにかけて△0.13%~△0.11%の水準まで上昇した。その後、1日受渡しではSNの△0.10%近辺に対しTNの△0.15%~△0.13%、2日受渡しではSNの△0.18%~△0.15%に対しTNの△0.10%近辺と、SNとTNでレートに格差が見られた。TDB3Mの発行日となる5日受渡しはSN、TNともに△0.10%近辺が出合いの中心。週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされ、△0.14%近辺に低下し越週した。
SC取引では、5年134回債が2日の国債買入オペ後にビッドが増加し、△0.30%~△0.20%で取引された。10年349回債は月末受渡しで△0.40%近辺で出合った後は週を通し緩み方向で、2日の国債買入オペ後を含めても概ね△0.20%台半ば~△0.10%台後半で出合いがあった。他2年 383・384・385回債、5年133・134回債、10年334・336・337・338・339・340・341・342・343・346・347・348回債、20年162・163回債、30年57回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。